

## 会 議 記 錄

会議名称		第1回杉の樹大学事業企画運営業務受託者候補者選定会議
日 時		令和7年8月19日(火) 午前11:00~午後0:10
場 所		杉並区役所東棟4階 庁議室
出 席 者	委 員 名	保健福祉部高齢者担当部長 徳嵩 淳一 区民生活部地域課長 最上 亮 杉並保健所健康推進課長 山田 恵理子 教育委員会事務局生涯学習推進課長 牛山 進一郎
	事 務 局	保健福祉部高齢者施策課長 海津 康徳 保健福祉部高齢者施策課長寿応援ポイント担当係長 鶴 佳久 保健福祉部高齢者施策課いきがい活動支援係 荒島 美紀
欠 席 者	委 員 名	保健福祉部地域包括ケア推進担当課長 田中 希美子
配 布 資 料	事 前	なし
	次 第 当 日	次第 資料1 杉並区杉の樹大学事業実施要綱 資料2 杉並区杉の樹大学事業企画運営業務受託者候補者選定会議設置要領 資料3 杉の樹大学事業企画運営業務受託者候補者選定会議 委員名簿 資料4 杉の樹大学事業企画運営業務受託者候補者選定スケジュール(案) 資料5 杉の樹大学事業企画運営業務公募型プロポーザル実施要領(案) 資料6 審査基準(案) 資料7 第一次審査表(案)・第二次審査表(案) 参考 プロポーザル利害関係確認チェックシート
会 議 次 第		1 開会 2 高齢者担当部長挨拶(会長挨拶) 3 委員紹介 4 職務代理者指名 5 議事 (1) 今後のスケジュール(案)について (2) プロポーザル実施要領(案)について (3) 審査基準(案)について (4) その他 6 閉会

<p>主要な発言（会議の結果及び 会議の要旨）</p>	<p>会長は、設置要領第5条第1項により、保健福祉部高齢者担当部長の旨、説明した。</p> <p>設置要領第5条第3項に基づき、会長の職務代理者に地域包括ケア推進担当課長を指名した。</p> <p>事務局から、今後のスケジュール（案）、実施要領（案）、審査基準（案）の説明を行った。</p> <p>○主な意見及び質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他所管における類似事業と本事業への提案内容の違いについて質問があり、事務局から本事業では介護予防等の視点を意識しつつ、「高齢者の生涯学習+地域参加」に重点を置くという点で、違いがあると認識している旨、説明。</li> <li>・参加資格の類似業務の要件について質問があり、事務局から全く同一の内容ではなく高齢者を対象とした学び等の講座を実施していれば類似業務になる旨、説明。</li> <li>・連続講座に求める提案内容について質問があり、事務局から連続講座は期間が長いため、1つの内容に特化するのもよいが、高齢者にとって長い期間、興味を持ち続けられるバリエーション豊かな講座内容の提案があることを望んでいる旨、説明。</li> <li>・講座参加者が高齢者であることも踏まえ、安全配慮や熱中症対策について質問があり、事務局から傷害保険への加入などの安全管理を実施要領に明記しているほか、熱中症予防のため、実施時期や対策等については、受託事業者と協議の上で決定する旨、説明。</li> <li>・講座の申込方法について質問があり、事務局から往復ハガキ以外の申込受付方法を提案することも可能としている旨、説明。</li> <li>・第一次審査項目の費用対効果について、第二次審査のヒアリングの状況などで改めて評価したい場合について質問があり、事務局から総合評価の項目になる旨、説明。</li> <li>・費用に見合った人員を配置しているか確認する項目について質問があり、人員配置については、第一次審査及び第二次審査において業務遂行体制として評価項目がある旨、説明。</li> </ul> <p>各委員からの意見・質疑があったが、修正すべき点は無かったため、今後のスケジュール（案）、プロポーザル実施要領（案）及び審査基準（案）について、事務局案どおり、選定委員全員の了承を得た。</p> <p>今後の開催日程（予定）</p> <p>第2回選定会議：令和7年10月28日（火）メール会議の旨、了承を得た。</p> <p>第3回選定会議：令和7年11月12日（水）午前10時～ 実施</p>
---------------------------------	---

## 会 議 記 錄

会議名称		第2回杉の樹大学事業企画運営業務受託者候補者選定会議
日 時		令和7年10月16日（木）～10月27日（月） 第一次審査（書類審査） 令和7年10月28日（火） メール会議
場 所		メール開催
出 席 者	委 員 名	保健福祉部高齢者担当部長 徳嵩 淳一 区民生活部地域課長 最上 亮 保健福祉部地域包括ケア推進担当課長 田中 希美子 杉並保健所健康推進課長 山田 恵理子 教育委員会事務局生涯学習推進課長 牛山 進一郎
	事 務 局	保健福祉部高齢者施策課長 海津 康徳 保健福祉部高齢者施策課長寿応援ポイント担当係長 鶴 佳久 保健福祉部高齢者施策課いきがい活動支援係 荒島 美紀
配 布 資 料	事 前	応募事業者の提案書類（副本）一式（3事業者分） 第一次審査表（委員入力用） 財務状況分析報告書 第二次審査事務局共通質問（案） 参考 ・審査基準 ・第一次・第二次審査表 ・杉の樹大学事業企画運営業務公募型プロポーザル実施要領
	当 日	次第 資料1 第一次審査の集計結果 資料2 第二次審査事務局共通質問（案） 資料3 第二次審査タイムスケジュール（案） 参考 ・審査基準 ・第一次・第二次審査表
会 議 次 第		1 第一次審査結果について 2 議事 (1) 第二次審査事務局共通質問について (2) 第二次審査のタイムスケジュールについて

<b>主要な発言 （会議の要旨）</b>	<p>事務局より、資料一式を各委員宛てに送付した。</p> <p>1 第一次審査 10月27日（月）を期限とし、各委員が第一次審査を実施し、審査表を事務局宛てに提出した。</p> <p>2 メール会議 事務局で第一次審査の集計を行ったのち、10月28日（火）に第一次審査集計結果、第二次審査（ヒアリング審査）の共通質問（案）及び第二次審査のタイムスケジュール（案）の内容について、メール上で会議を開催した。</p> <p>（1）第一次審査結果について 第一次審査集計結果について、各委員同意のもと結果が確定し、審査合計点数の6割以上を獲得した2事業者を第一次審査通過事業者とすることとした。</p> <p>（2）第二次審査（ヒアリング審査）の共通質問（案）の内容について 共通質問（案）については、事務局案どおり、選定委員全員の了承を得た。</p> <p>（3）第二次審査タイムスケジュール（案）について 第二次審査タイムスケジュール（案）については、事務局案どおり、選定委員全員の了承を得た。</p> <p>次回の開催日程（予定） 第3回選定会議：令和7年11月12日（水）午前10時～ 実施</p>
--------------------------	---

会 議 記 錄

会議名称		第3回杉の樹大学事業企画運営業務受託者候補者選定会議
日 時		令和7年11月12日（水） 午前10：00～午前12：00
場 所		杉並区役所西棟6階 第5会議室
出 席 者	委 員 名	保健福祉部高齢者担当部長 徳嵩 淳一 区民生活部地域課長 最上 亮 保健福祉部地域包括ケア推進担当課長 田中 希美子 杉並保健所健康推進課長 山田 恵理子 教育委員会事務局生涯学習推進課長 牛山 進一郎
	事 務 局	保健福祉部高齢者施策課長 海津 康徳 保健福祉部高齢者施策課長寿応援ポイント担当係長 鶴 佳久 保健福祉部高齢者施策課いきがい活動支援係 古屋 裕子、荒島 美紀
配 布 資 料	事 前	なし
	当 日	次第 資料1 第一次審査 審査結果一覧 資料2 第一次審査 委員別審査表 資料3 第二次審査タイムスケジュール 資料4 事務局からの共通質問 資料5 第二次審査の進め方について 資料6 審査基準 資料7 【参考】第一次審査表・第二次審査表 資料8 第二次審査表（記入用）
会 議 次 第		1 開会 2 第一次審査の結果について 3 第二次審査の進め方について 4 第二次審査（事業者プレゼンテーション・ヒアリング（2事業者）） 5 第二次審査の集計結果について 6 受託者候補者の選定 7 その他 8 閉会

主要な発言（会議の結果及び 会議の結果及び 会議の要旨）	<p><b>1 第二次審査の進行について</b>          事務局より、本日の進め方、第一次審査の結果、第二次審査の進め方について説明を行った。          本日、プレゼンテーション、質疑応答を行い、第一次審査及び第二次審査の各委員の採点結果をもとに受託者候補者を選定する旨、説明を行った。</p> <p><b>2 プrezentation・ヒアリング・採点</b>          各事業者のプレゼンテーションに対し、質疑応答、審査を行った。</p> <p><b>【共通質問】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 講座当日、従事者に欠員が生じた場合にどのように対応するのか。</li> <li>② これまで類似業務を行ってきた中で、例えば参加者同士・参加者間のトラブルについて、どのような対応・解決を図ったか。</li> <li>③ これまでの業務実績や経験を踏まえて、今回の高齢者を対象とした企画・提案にどのように活かしたのか。</li> <li>④ 「高齢者活動支援センター」の施設外で実施する講座の内容、定員、実施体制について、通常の講座の場合との変更点や安全対策は何か。</li> </ul> <p>○A 事業者</p> <p><b>【共通質問に対する回答】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 業務責任者が前月までに他業務を含めた従事者の空き時間を把握しており、何かあった場合は真夜中でも業務責任者に連絡するよう周知している。当日は、事業内容を理解している当日対応可能な人員が対応し、穴が開かない体制を確保する。</li> <li>② 過去に大きなトラブルはない。双方の意見を中立的に聞き、区の考え方との整合性と照らし合わせながら判断する。</li> <li>③ 過去の反省と経験を最大限に活かす。何かあればまず区へ相談する。</li> <li>④ 施設外で行う講座では、定員を少なくすることや、参加者を複数組に分けることに加えて、最低2～3人の付き添い者を配置して安全性を確保する。また、事前にトイレ・休憩場所・ルートを調査する。</li> </ul> <p><b>【個別質問に対する回答】</b>（「・」は委員の発言、「→」は事業者の回答を示す）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者像の変化を提案講座にどう反映できるか。もしくは既に反映しているか。        →現役で働く60代が増え、地域活動への参加が難しい状況。講座は、参加者の学習欲を満たしつつ、地域活動への第一歩になるよう工夫している。</li> <li>・写真講座に特に工夫を感じる。長年、運営をしてきた中での成果は何か。        →写真の講座については、技術より、交流や対話の機会を大切にしてきた。</li> <li>・60歳以上の区民（特に65歳よりも少し若い層）に关心を持ってもらうための普及啓発方法について何を考えているか。        →若めのシニア層は忙しいので、参加者を集めることについては苦労している。講座の企画内容によって参加者層が変わってくるため、若めのシニア層へアピールできる魅力ある講座していく。アピールの手段は、区民に一番届く手段である広報すぎなみを活用する。</li> <li>・ICTを活用した普及や取り組みについて何か考えているか。</li> </ul>
------------------------------------	---

	<p>→ここ数年で SNS や生成 AI への関心が高まり、それに特化した講座の依頼が増加している。現在はパソコン教室等で AI 体験を取り入れている。単なる操作説明から一歩進んだ内容にシフトしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の興味関心が広くなっている中で、どのようなテーマを、どのように新しく取り入れていくか。           <p>→インターネットの使い方や AI 体験などが新しいテーマ。アンケート結果や参加者の反応を踏まえて新しい内容を取り入れていく。</p> </li> <li>・講座などに参加したことがない人を取り込むには、どう展開していけばよいか。           <p>→シニア層が興味を持ちそうなテーマを常に調査し、今まで実施したことのない新しい講座（例：生成 AI）を企画している。シニア層に届く工夫を試行錯誤しながら行っている。</p> </li> <li>・提案の中で、行政の所管課長の話を聞く内容の期別講座があるが、講座参加者が、単に内容を理解するだけでなく、理解したことを基に、地域活動へどうつなげていくのか。           <p>→講座では、行政の話を聞くだけで終わらず、その内容を自分の生活や地域活動に活かすこと目標としている。具体的な活動は未定だが、講座後に参加者が次の一步を踏み出すためのサポートを行いたい。</p> </li> <li>・講座を受講した参加者が、学ぶだけではなく、その次の一步に踏み出せるような仕掛けについて、どのようなことを考えているか。           <p>→受講者が、講座終了後にグループ化して次の活動の一歩を作ることができるような仕掛けづくりや、受講後の次に繋がる講座の準備、学びが活かせる場の情報提供などを行い、次の活動に繋がるような導線づくりを考えている。</p> </li> <li>・これまでにどのような反省点があり、それをどのように活かしたのか。また、提案講座選定の理由と、その講座が地域活動への一歩にどうつながるか。           <p>→講座参加者が友人を誘うような形での広がりの事例がある。講座終了後に「もっと続けたい」という声があれば、延長の講座の用意など、必ず次につながる受け皿を準備して、継続性を重視する。</p> </li> <li>・インターネットを通した申込受付のニーズが高まっている中、申込受付方法を往復はがきのみとした理由は何かあるか。           <p>→間違いなく対応できる手段は往復はがきであると考えた。インターネットでの申込受付は、区と相談して検討する。</p> </li> </ul>
	<p>○B 事業者</p> <p>【共通質問に対する回答】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 急な休みが発生した場合、即時エスカレーションを行い、サブ担当者が代替対応可能な体制を整備済み。</li> <li>② 今までに大きなトラブルはない。参加者間のトラブルが発生した場合は、両者の席を離すことや、スタッフの配置等により対応する。</li> <li>③ 講座後も自宅や仲間内で継続できる内容や、趣味として生活に取り入れられるテーマを提案した。</li> <li>④ 施設内外で定員に応じて人員体制を強化する。過去の類似事業でも安全管理を徹底し、問題なく運営してきた実績がある。</li> </ol>

	<p><b>【個別質問に対する回答】</b>（「・」は委員の発言、「→」は事業者の回答を示す）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者像が変化する中、地域へのつながりや貢献について関心を持っている方が今回の提案プログラムに参加する場合、それをどのように活かすことができるか。        →インバウンドが増加し、杉並区内にも外国の方が増えていることに対応し、「英会話と国際交流」の講座を設定した。講座終了後に簡単な地域の紹介ができるようになることなどが地域貢献につながるうえ、周りの方々への影響もあると考えている。</li> <li>・参加者それぞれの関心に合わせて、講座のテーマを調整できるか。        →例えば健康の講座では、現在は体を動かす内容を中心しているが、参加者によって、座学や食育などに変更が可能。</li> <li>・単発講座「シニアの運動会」では、参加者自身が何か工夫できる要素があるのか。それとも、用意されたプログラムが中心なのか。        →基本的に、設定したテーマに沿って参加してもらう想定はあるが、参加者自身が工夫する要素があるような企画を改めて提案することは可能。</li> <li>・参加者から、学び続けたいと要望があった場合のフォローアップは何か考えているか。        →別の期別講座への参加や、講師への簡単な相談対応などが可能。</li> <li>・他区での実績が豊富だが、杉並区の特徴や高齢者像をどのように捉えているか。        →絵画や俳句の講座で、杉並区の何かをテーマにしたり、杉並区内在住の講師を手配したりすることで、地域性を講座に反映する。高齢者の「仲間が欲しい」という気持ちは、杉並区に限らず共通であると考えている。</li> <li>・講座の周知方法として、高齢者（60歳以上）の世帯にチラシを3万部ポスティングすることだが、検討している方法は何か。        →高齢者層が多い新聞購読世帯へ新聞折り込みでの配布を検討。新聞購読世帯以外へは、広報すぎなみやチラシ閲覧を周知方法として活用する。</li> <li>・講座で学習することがメインにならずに、講座終了後に仲間づくりや地域活動へ繋げる方法についてどう考えているのか。        →実践的な講座を検討しており、講座内でも参加者同士での交流の時間を設ける予定であるため、仲間づくりに繋げることが可能。</li> <li>・「英会話と国際交流」講座で、外国人留学生との交流会を行うとのことだが、実際に可能なのか。また、他区での実績はあるのか。        →日本語学校を運営しているため、留学生を集めて交流会を行うことができる。実際に、日本語学校の生徒ではないが、他区での開催実績もある。</li> <li>・他区での実施の際、申込が殺到して抽選での受講決定となり、クレームが生じたことはあるか。逆に、申込数が少なかった講座はあるか。        →申込が殺到して予約が取れないとの声があったものについては、講座数を増やしたり、次年度に同内容の講座を実施したりすることで対応した。申込数が少ない講座はあまりなかったが、講座参加者にアンケートを取り、満足度の高い講座内容にするよう工夫している。</li> <li>・講座の中で、地域活動への参加を促す工夫は何か考えているか。        →講座実施時に、地域貢献できるイベントやボランティアの紹介を行う。</li> <li>・杉の樹大学の目的を踏まえた、講座設定の理由や意図は何か。        →杉並区だから特別に設定したことではなく、これまでの高齢者向け講座の知見</li> </ul>
--	--

- を活かし、高齢者の方々にどう還元できるかを重視して設定した。
- ・他自治体等で講座受付でも使用しているスマートフォンや二次元コードを使った申込方法の利用割合はどの程度か。  
→8～9割がウェブからの申込みである。
  - ・提案されている「お金と終活」講座について、ファイナンシャルプランナーなどが関わる実践事例で、講座終了後にトラブルが発生したことはないか。  
→資産運用等の深い内容や相談の機会は設けておらず、全体的な話にとどめているため、トラブルが発生したことはない。
  - ・シニア向け運動会について、杉並で実施する場合はどのスペースを使う想定か。また、安全管理が必須だが、過去の経験で工夫している点や全体のイメージを教えてほしい。  
→定員を30名程度としているので、会場はそこまでの広さを必要としない想定。人員配置は4～5名とする予定で、急病や怪我への対応は、内部のエスカレーション体制で迅速に対応する。

### 3 審査

各委員の採点終了後、各委員の審査結果を集計の上、集計結果を示し選定会議内で共有し、意見交換を行った。

#### ○主な意見

##### 【A 事業者】

- ・地域性を重視した提案内容で、杉並区に根ざした活動実績が豊富である。
- ・講座に参加したことがないような新しい層を取り込む工夫が欲しい。
- ・行政職員が講師となる期別講座は、地域課題に取り組んでいきたい積極的な方の参加が想定され、興味を持ち参加しやすいという講座内容となっているのに賛否が分かれる。
- ・深夜であっても業務責任者に連絡となっており、業務責任者に事故等があった場合の組織としてのフォローオン体制が懸念される。

##### 【B 事業者】

- ・申込受付でのICT活用（スマホ・二次元コードなど）や、新聞折り込みでのチラシ配布により今は活動していない・参加していない新しい層へのアプローチが評価できる。
- ・講座に地域性をどう組み込むかと、仲間づくりだけで終わらないような地域活動への結び付けが課題。

#### ○受託者候補者の決定

選定委員の合意の上、第一次審査及び第二次審査における各委員の審査合計点数が、全審査合計点数（68点+100点=168点）の6割（100.8点）以上となる事業者のうち、最高点数を得た事業者を、受託者候補者として選定した。

※審査結果は、別紙「杉の樹大学事業企画運営業務公募型プロポーザル選定結果」のとおり。